

第 17 回 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会

開催日時	令和元年 10 月 28 日（月） 13：30～15：30	場 所	東海村役場 2 階 205 会議室
出席者	委員／◎小原委員，○井坂委員，川亦委員，坏委員，安尾委員，荒木田委員，原委員，川崎（敏）委員，藤田委員，川崎（道）委員，鈴木（さ）委員 事務局／企画総務部 企画経営課 富田課長，石井課長補佐，松崎係長，藤田主事，萩野谷主事 建設部 都市整備課 河西課長，大友副参事，高橋課長補佐，横山係長 欠 席／久賀委員，寺田委員，鈴木（千）委員 <div style="text-align: right;">（◎：委員長，○：副委員長）</div>		

○委員会の結論

- 本委員会は発展的解消とし、今後の方向性については、井坂委員、坏委員を中心に、小原委員長にも助言をいただきながら検討する。（新たな組織には、原子力機構も参加する。）
- 計画書は、本会議の意見を踏まえて最終版とし、協働で推進していく。
- J-PARC 進入路については、計画書の内容を踏まえ、原子力機構と行政で協議を進める。
- ふれあい広場について、委員から出された意見について、企画経営課から（株）JERA に伝える。
- 資料 3 については、今後の活動イメージの修正や、本計画をベースとして活動を行っていくことを書き加え、計画書と共に送付する。

○当日の活動・協議内容

1 開会（石井課長補佐）

2 小原委員長あいさつ

本日はお忙しい中お集りいただきありがとうございます。9 月 14 日の交流会は非常に大事な会でしたが、体調不良により欠席してしまって申し訳ありませんでした。今日は最後にまとめがあるとのことですので、あいさつは短めにします。この委員会は、年号を跨ぐ、長い会議となってしまいましたが、事務局の尽力と、委員の皆さんの協力で、一つの形になったと思います。今日はいよいよまとめということで、これからスタート地点に立つという気持ちで会議に参加いただければと思います。よろしくをお願いします。

3 議事

（1）村松地区地域活性化に向けたこれまでの総括について

※企画経営課 松崎係長より資料 1-1，1-2，1-3 を説明

■（坏委員）計画書に J-PARC 進入路の絵が入っていないが、入れることができないのか

⇒（松崎係長）P8 の大きな絵の修正は間に合わなかった。P9 大神宮・虚空蔵堂エリアの説明文として、車が入るイメージまではできていないが、表現として進入路ができるような書き方をしている。

■（小原委員長）J-PARC 進入路の記載について計画に修正として加えるか

⇒（松崎係長）文字として表現している。（J-PARC 進入路の）詳細は後ほど説明する。

（2）村松地区に関する周辺地域活性化構想（案）のサウンディング型市場調査について

※企画経営課 萩野谷主事より資料 2 を説明

■（坏委員）活性化というのは内からの活性化と外からの活性化の2種類があるが、今回の結果は外からの活性化である。本来活性化というのは、中からもできるものである。結果には「今後も活性化に向けた更なる検討を進める」との記載があるが、今後は事業者に頼らない活性化も必要である。

⇒（小原委員長）（事業者に頼らない活性化というのは）既存の市場に乗せた場合ということで良いか

⇒（坏委員）よい。また、目的や条件も明確にしていかなければ民間からの提案は難しいと記載があるが、目的や条件は今後明確にしていくことである。そしてもう一つ、今回は委員長の助言で状況調査を行い、状況調査の結果が記載されているが、人口状況のどこにフォーカスするか記載がない。状況調査の後、周辺の現状を把握し、活性化計画を進めると記しておくと思う。

■（井坂委員）サウンディング型市場調査は役場で何件か行っていると思うが、他の案件に対しては、何社くらいの事業者から応募があったのか。

⇒（松崎係長）役場で行ったサウンディング型市場調査は4件あり、応募事業者は1社から4社となっている。テーマによって事業者も応募しやすいものがあるのだと思う。村松地区の調査については、テーマが大きいため、民間も手を上げにくかったのかもしれない。

■（小原委員長）今回のように調査ではなく、具体的な開発に結び付くような案件であれば、応募事業者も多かったかもしれない。

（3）今後の委員会の方向性について

※企画経営課 萩野谷主事より資料3を説明

■（藤田委員）資料のイメージ図の各組織の重なりは、何を指しているのか。

⇒（松崎係長）図の重なる部分は、今後の活動の中で生まれてくるものであり、何らかの連絡調整や協力体制が必要になってくるところではある。関係機関のところは、原子力機構が中心になることが想定されるので、今後も御協力お願いしたい。

■（川崎（敏）委員）幼保跡地整備については年末から駐車場として使えると聞いているが、国道245号が4車線になったときの大神宮や虚空蔵堂へ向かう動線はどのように考えているか教えてほしい。

⇒（河西課長）井坂石油前にある横断歩道を移動させ、横断歩道を設置する予定。信号については、交差点の信号に近いので設置するのは難しい。

⇒（川崎（敏）委員）国道245号が4車線になった場合、参道を通らずに、両側の横断歩道を通って、信号を渡るという可能性は低いと思う。

⇒（川亦委員）前から言っているが、新川の南側の道は、一部の住民が止めているが本来通れる場所である。その道を整備すればいいのではないか。

⇒（川崎（敏）委員）幼保跡地に駐車場ができることには賛成だが、大神宮や虚空蔵堂への動線は考えていかないといけない。

⇒（河西課長）既に国道245号拡幅の図面がある。何年後かにはそれに合わせて歩道が整備されるので、その要件を確認して対応したい。

⇒（川崎（道）委員）村松地区の住民は、国道245号拡幅についてもう少し切実に考えるべき。照沼地区で道路が4車線になったとき、事故が多くなり、死亡者も出てしまった。きちんと整備しないと事故につながってしまうと思う。

⇒（川崎（敏）委員）新川の橋の工事をしているが、その橋を渡って参道に入るという考えはあるか。

⇒（富田課長）今から変更するのは難しい。村外から来る人をどう誘導するかは考えておく必要がある。

■（坏委員）資料のイメージ図について、関係機関は原子力機構等になると思うが、地域活性化に活用するのは保有財産だけではないと思う。関係機関の活動そのものを地域活性化に利用していきたいので、資料には、「関係機関の事業や活動全て」という文言を入れてほしい。また、地域住民については、地域住民だけが活動の主体ではないので、「地域活性化に向けた活動」に修正してよいと思う。同じように考えると、行政もパイプ役だけではなく、事業が入っているべき。タイトルも、今後の地域活性化活動のイメージにした方が分かりやすいと思う。それぞれの組織が重なるところは、地域活性化の活動に向けたウィンウィンの活動とギブアンドテイクと記載するとよいのではないか。

⇒（富田課長）行政、関係機関、住民それぞれが独自で行えることを行いながら、連携を取っていくことが必要であり、調整役は行政の役目だ。資料については、坏委員の意見を反映させて修正する。

■（安尾委員）今後、計画書はどうなっていくのか。資料だけ見ると2年間続けてきたこの委員会活動が消えていき、計画も実行へは進んでいかないように感じてしまう。具体的にどのような活動になるのか教えてほしい。

⇒（松崎係長）説明不足で申し訳ない。計画ができたことはこれまでの財産となるものだと思っている。本計画書は、進化し続けるものでもあるので、完成することはないと考えている。そのため、計画を更新していくことはいったん区切りとし、今後は計画書を基に、地域で活動していく期間に移行していきたいと考えている。最初から何もないところに進んでいくようなイメージを与えてしまったかもしれないが、行政側としてはそのようなイメージはなく、行政、関係機関、住民それぞれが独自で行えることを行いながら、連携を取って一緒にやっていくことを想定している。この資料は、先日の交流会のような活動を、もっと大きな視点で行いたいという提案だ。

⇒（安尾委員）確かに積み上げてきたものはある。この委員会の中でもいろいろ意見が出て、それぞれの想いをまとめるのは大変だったと思う。今の計画にはいろいろな気持ちが入っているので、それが現実になると嬉しい。しかし、前の資料の中には「住民説明会を行い、アクションプランをつくる」等が記載されていたと思う。スケジュールや行うことは、「出ては消え」を繰り返している。今回の資料でも、推進体制の話が消えている。理由があって消えているはずなのでよいと思うが、今ある活動や今後行う活動も、行政側の人事異動などで無くなってしまわないか心配だ。マイナスなイメージを感じてしまったが、宿区と真崎区にどう説明するか伝えてもらえたら、捉え方も少し違っていただかもしれない。また、計画については更新されていくものだと思うが、どのタイミングで誰が行うのか疑問だ。同じようにステップに記載されていることも、誰が主導で行うのか疑問に思う。その辺りを具体的に考えているのであれば、教えてほしい。

⇒（富田課長）心配していることはよく分かる。行政計画は計画が策定されると終わり、計画の実行について行政で責任を持たず、住民から批判されることも多い。しかし今回の計画は、心配されていることが起こらないよう、継続していく。この計画は、行政の仕切が悪く時間がかかってしまった面もある。しかし、内容は素晴らしいもので、委員の方の熱い思いが入り、項目も具体的に記載されている。記載された内容を実行していくのは、行政はもちろんだが、委員の方一人ひとりの役割でもあると考えている。我々とよく打ち合わせをしている井坂委員や坏委員からもこのあと話があると思うが、今のような委員会の形でこの計画を進行管理していくのがよいか、または、先日開催した交流会のようなイベントを住民からの提案で行ったり、行政からの提案で住民に参加してもらったりしながら行うのがよいか。いずれにしても、今回の計画に則りなが

ら進めていきたいと思っている。今後どのような組織になるかは未知数だが、計画を進めていくときは、企画経営課だけではできないので、都市整備課等の関係課と横の連携を図り、住民の方にも情報提供を行いながら進めていきたい。この計画を消してしまうようなことはない。計画を更新し、具体的な行動を行っていくことがより重要だと思うので、協働で活動していきたい。

⇒ (安尾委員) 委員会は今もう終わりにして、新しい組織に移行していくべきだと考えており、住民の側の立場として、引き続き活動に参加し、つくった計画を実行していきたい。また、委員会についても、消えていくとは思っておらず、事務局からの伝え方の問題だと思う。この資料だけでは後ろ向きな捉え方をしかねない。2年間関わってきた側からすると、もったいない結果にしたくないので、資料をつくる時も、表現は気を付けてほしいと思っている。

⇒ (川崎(道)委員) この計画には村松地区の問題が記載されており、村松地区について説明するにはよい資料だと思う。しかし、具体的なことは記載されていないので、行政が中心となって今後の活動を行っていくものなのだと思う。今問題になっている、この委員会を続けるかどうかという問題だが、プロジェクトは目的を達成すれば終わりだと思う。誰が行うか分からないが、今後は新しい組織で、明確な目的を持って計画の進行管理を行っていくのがよいと思う。

⇒ (小原委員長) いくつか意見を述べたい。まず1点目だが、この体制で会議を行うことは限界がきていると感じており、発展的解消で賛成である。2点目だが、資料3の扱いはどうなるのか。

⇒ (松崎係長) 資料3は今回の委員会資料であり、委員への説明資料である。

⇒ (小原委員長) ずっと言い続けてきたことだが、総合戦略や総合計画をみると、どこの自治体でも同じようなことを記載している。そうすると、ステップ2や3はどこの自治体にも当てはまるものになってしまうと思う。先ほど意見もあったが、ここで残せたものは固有名詞のコンセプトで、ここにしかないコンセプトと将来デザインの2つだと思っている。この2つをベースにしながら、計画を進めていくべきだと思う。必ず実現するということではなく、「ベースにする」という表現でよいので、資料の中に記載してほしいと思う。

⇒ (富田課長) 間違いなくその表現は入れたいと思う。

⇒ (小原委員長) これからは、計画を達成するためにどんな組織が必要かを考えていく議論になると思う。ただ、何も無いところから出発するわけではなく、これまでつくり上げた計画を、どこから実行していくかということになってくる。

⇒ (井坂委員) 私も資料3を見ると、この委員会が消えていくような寂しい印象を持った。それと、サウンディング型市場調査を行い、計画の目的が明確ではないこと、村松地区の目玉になるような強い魅力となるようなものが必要なこと、民間が参入できそうな地区があることが明確になったと思う。また、交流会は、阿漕ヶ浦の魅力を確認するのが目的で、その目的は達成できたと感じている。皆さんも感じていると思うが、阿漕ヶ浦の魅力や J-PARC 進入路の整備が今後の軸になっていくと思う。この計画を策定してきた中で、原子力機構の計画にも組み入れていただき、村松地区の可能性が見えてきている部分があり、村松地区として発展していく可能性があるのだと感じている。ただ、大まかな絵はできたが、具体的な細かいところはまだできていないので、誰がどう進めていくかが一番大事なところだ。役場が推進していくのだと思うが、新たな組織ができたときは、役場との役割分担を考えながら進めるようにしていきたい。先日の交流会を期に役場や坪委員と相談している最中だが、次のステップをしっかりと踏めるようにしていきたいと考えている。現段階では役場も明確なことは言えないのだとは思いますが、我々2人が代表してもう少し調整を行い、今後の方向性を考えたい。

⇒ (富田課長) 役場としても、この委員会は別の形にしたいと考えている。井坂委員から提案があったように、この場ですぐどのような形にするかは決まらないと思うので、今後、井坂委員や坪

委員を中心とし、小原委員長にも助言いただきながら、どのような形にするか考えていきたい。

- ⇒ (川崎(道)委員) 今回できた計画は、真崎区や宿区、川根区や照沼区に説明してはどうか。
- ⇒ (富田課長) この計画をどう PR していくかが大事だと思う。せっかく委員さんがつくったので、地域に PR するのであれば、委員さんにも協力してもらいながら PR していくのがいいと思う。なお、イラスト図や計画の概要は村松コミュニティーセンターに掲示して、住民の方に見てもらったので、今後もそのような活用は行っていきたいと考えている。
- ⇒ (荒木田委員) もうそういうことはやらなくてよい。住民が参加すると、さらに様々な意見や要望が出て話がまとまらなくなる。
- ⇒ (富田課長) 住民の意見を聞くというよりは、住民に「このような計画があるとお知らせしたい」という意見だと思うが。
- ⇒ (荒木田委員) 今後のことについては、行政と委員長を中心として考えてもらえればよいと思う。大神宮としては、できることを協力していく。
- ⇒ (藤田委員) 原子力機構としても、この計画がどうなっていくか気にしているところである。この委員会が始まったときにいろいろ御意見をいただいて、機構の立場も説明することができた。真砂寮の問題も原子力機構に持ち帰り、活用等の検討をしている。今後は J-PARC 進入路を絵の中に描けるような形にしていきたいと思っている。また、この委員会のように意見がもらえる場が今後できるのか気になるところだ。私もいつ異動になるか分からないので、原子力機構の中できちんと引き継いでいきたい。
- ⇒ (富田課長) 新しい組織は今後検討されていくが、引き続き、原子力機構には入っていただきたいし、当然入るのだと思う。
- ⇒ (鈴木(さ)委員) この計画は、みんなの想いが描かれているが、いつまでにこの計画が完了するのかは記載されていない。実行するかどうか分からないと思うので、住民の方に話してしまうと「いつまでにできるのか」と意見する住民もいるのではないか。例えば、村松山虚空蔵菩薩様が 15 年後ぐらいに開帳されるので、そこまでに実行するなど、目標があった方がよいのではないか。
- ⇒ (富田課長) 今回の計画は、夢も含めたみなさんの想いがつまったものであり、それを年次計画にするには、予算や実施計画が決まっていけないと盛り込めない。ここに現段階で期限や予算を入れられないというのは、御了承願いたい。ただ、基本的には、計画に沿って実現に向けた取組みを進めていくことになる。この後説明もあるが、J-PARC 進入路については、一番先に取り掛かることになると思う。その他の順番については、今後できる別組織で検討していくことになる。
- ⇒ (荒木田委員) 最終的に J-PARC がどこまで譲れるかではなか。

(4) その他

○ J-PARC 進入路について

※藤田委員より説明

- J-PARC 進入路については、真砂寮を含めた原子力機構の取組みとして、3月に本委員会で説明した。原子力機構が東海村内に持っている所有地をどのように活用していくかについて、この委員会が立ち上がった頃から検討している。具体的に、真砂寮や長堀寮はいずれもかなり老朽化しているので、次のものを考えたらよいのではないかという意見が出ているが、予算確保は厳しい。そのため、PFI 等の民間の力で施設をつくってもらおうと考え、今、民間の意見を聞きながら着々と検討を進めている。早ければ数年内に整備できる可能性がある。整備後に活用するためには、いろいろとステップを踏む必要があるので、次の組織の中で協議していくことになると思う。先

ほど資料3で「保有資産の活用」との記載があったが、「東海村のまちづくりに貢献」ということ
を、まさにやっているところであり、その一部として J-PARC 進入路の整備を行っていき
たい。なかなか予算が厳しく、難航しているが、上層部も含めて（整備を）行う方向で進
めている。国の予算取りがいつ実現するか等不透明な部分もあるが、阿漕ヶ浦から八間道
路に向かって、一般の人や車が出入りできるような道で、J-PARC にアクセスできる道
を構想し、東海村の関係部署とも協議している。いろいろ課題もあるので厳しいところ
もあるが、J-PARC 進入路等の長年の要望は実現していきたい。（J-PARC 進入路は）でき
ればバスも入れるような道とし、駐車スペースを確保もしたい。

⇒（川崎（敏）委員）J-PARC 進入路の整備を行い、中に駐車場も整備できると、裏
からの進入路となり、大神宮・虚空蔵堂は裏門のような形になると思うが、大神宮
としては大丈夫なのか。

⇒（荒木田委員）管理区域に入っていくのではないか。

⇒（井坂委員）そこは調整が必要だと思う。当初から話もあるが、防災面は考
えているのか。

⇒（川崎（敏）委員）原子力機構の土地に駐車場はつくるのか。原子力機構が
難しいのであれば、役場でつくるしかないのではないか。

⇒（富田課長）どちらが駐車場を整備するかは協議をしていく。

⇒（川崎（敏）委員）虚空蔵堂や大神宮も、J-PARC 進入路ができれば、後
ろに駐車スペースを整備した方がよいと思う。

○ 株式会社 JERA 常陸那珂火力発電所構内「ふれあい広場」について

※「株式会社 JERA 常陸那珂火力発電所構内「ふれあい広場」について」に基づき、
石井課長補佐から報告

■（川亦委員）昔は北エントランスから入ることができたが、震災後入れなくな
っている。復旧はされるのか。

⇒（石井課長補佐株式会社 JERA によると、今のところ復旧は行わない予定。）

⇒（川崎（敏）委員）基本的に、東京電力ができたときは地域の人のための
体育館やテニスコートであった。だから裏に入口があった。せっかく開放する
のであれば裏門を開け、地域の人が利用できるように道を整備してほしい。

⇒（川亦委員）裏門の道は舗装してほしい。アスファルトだと犬が散歩する
ときかわいそうだ。

⇒（川崎（敏）委員）住民が利用できるように、わざわざ裏の入口をつくら
せてもらっている。照沼の住民は表の入口から入るが、村松の住民は裏の入口
を利用している。

⇒（富田課長）川崎委員と川亦委員の意見は、株式会社 JERA に伝える。

■（川崎（道）委員）釣りができる場所の復旧はされるのか。

⇒（石井補佐）今のところ予定されていない。

⇒（川亦委員）釣りをしても釣れないから（復旧しなくても）よいのではない
か。

⇒（川崎（道）委員）温水のところを開放すれば釣れるようになる。

■（川崎（道）委員）テニスコートに夜間照明は設置されないのか。

⇒（石井補佐）設置されない。

⇒（川崎（道）委員）電力会社なのだから設置してもいいのではない
か。

⇒（富田課長）株式会社 JERA に伝える。

■（井坂委員）サッカー場は人口芝のサッカー場として整備してもらいたい。

⇒（富田課長）先ほど出た皆さんの意見や要望は、行政から株式会社 JERA
にも伝えるが、宿区や照沼区については、自治会から文書の回覧などもなされ
るので、一住民としても意見を伝えて

ほしい。

■小原委員長あいさつ

長い時間の御協力に感謝申し上げます。富田課長の話にもあったが、夢を描く会議なのか、現実の部分を考えていく会議なのか、最後の最後まで悩んでいた。前課長のときには夢を描くということで、皆さんにはコンセプトを考えてもらったが、計画なのか構想なのか、あるいは活性化なのか、というところが曖昧だったと反省している。その反省点は次の段階の課題としてほしい。先ほども話したが、今回描いたコンセプトと将来デザインをベースとして活動してほしいと思っている。委員のみなさんの意見をどう処理していくかが大変だったが、3年間お付き合いいただき本当にありがとう。私個人としては、(村松地区に)人が集うということを目指してきたが、(委員のみなさんは)人が集うということで観光に結び付けていたのだと思う。失礼な言い方かもしれないが、その取組みが始まったばかりの村松地区というのは、(観光を魅力とするのは)まだまだこれからなのだと思います、(この委員会の)一つの落とし処としては、東海村の中で若い人が住む場所として村松地区を選択してくれるような地域とするのがよいと思っていた。村松地区は、村民活動がすばらしいとか、景色がいい、ゆっくり暮らせる、自然が豊かなど、ほかとは違った指標で暮らしやすさを構築できる場所なのではないかと考えている。私はすぐに観光地としていくのは難しいと考えていたが、今ブームとなっている神社仏閣を中心としたまちづくりにつながる可能性もあると、サウンディング型市場調査の結果から感じた。私が研究者として委員長を引き受け、足りなかったと思うことは、地域の課題抽出が遅かったことであり、かなり甘すぎたことだ。委員には最初から課題を出し切ってもらえればよかったと思うので、次の組織に引き継いでほしい。また、最近お付き合いのある自治体が(台風により)床下浸水したため、ボランティアに行ったのだが、被災地域を見ていると、みなさんが作り出したように、人が来てくれるような、外からのサポートをつくっておくことが非常に大事だと感じた。私は今、別の自治体のハード整備を検討するような委員会の委員長を任されることが増えたが、みなさんのお陰で委員長職を全うできていると感じている。みなさんに育ててもらった分を返せているか分からないが、私が感じたことは、富田課長や井坂委員に引き継ぎ、村松地区の活性化に繋げてほしいと思っている。本当にお疲れ様だった。

■(坏委員) この計画書は委員長が言ったように、活性化計画のコンセプトとして計画推進していくという文章を入れることや、J-PARC 進入路の整備を文字で入れる、周辺状況を考慮した人口で地域活性化を検討する等についても文言は修正してもらえるのか。

⇒(富田課長) 修正して再度送付する。

4 閉会 (石井課長補佐)

(以上)